

## 2020年度 第2回 京大本番レベル模試 国語(理) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

京大本番レベル模試

大問一 問一

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…8点

■模範解答

A

日本論や日本人論で繰り返り広げられている日本賛美が、

B

日本の科学技術的優位や経済的優位が揺らぎつつある中で、

C

日本の進んだ科学技術を誇るものから、

D

日本の昔ながらの職人技や伝統芸を賛美するものに変わってきたということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 日本論や日本人論で繰り広げられている日本賛美が…2点

・「日本回帰」が、もともと日本人がどういふ点で優れているのかということの説明がされていらないものは、要素A加点なし

・同意例…日本論などで展開されている、日本の優れた原点が、

■要素B 日本の科学技術的優位や経済的優位が揺らぎつつある中で…2点

・「変わってきた」ことの原因についての説明がされていないものは、要素B加点なし

■要素C 日本の進んだ科学技術を誇るものから…2点

・変化の前の状況が説明されていないものは、要素C加点なし

・科学技術が、世界と比べて先進的であるという説明がない場合、1点減点。

■要素D 日本の昔ながらの職人技や伝統芸を賛美するものに変わってきたということ

…2点

・変化後の状況が説明されていないものは、要素D加点なし

・職人技や伝統芸が、近代以前のものであるという説明が欠けている場合、1点減点。

・変化後の状況の説明がなく、数の増加についてのみ説明されているものは、1点

・変化後の状況と、数の増加の両方ともが説明されているものは、2点。

大問一 問二

形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：6点

■模範解答

A

国のアイデンティティを考える時に、

B

アメリカであるならば、国名としての「アメリカ」と聞くと、

C

即座に「自由」というイメージが強く連想されるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄二行一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 国のアイデンティティを考える時に…2点

・何に対して「自由」が「追いかけてくる」のかについての説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B アメリカであるならば、国名としての「アメリカ」と聞くと…2点

・どういう時に「自由」が「追いかけてくる」のかについての説明がされていないものは、要素B加点数なし

「国名としての『アメリカ』という点に踏み込めていなければ一点の加点数にとどめる

■要素C 即座に「自由」というイメージが強く連想されるということ…2点

・「追いかけてくる」という表現を一般化していないものは、要素C加点数なし

形式上の不備

- ・ 文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・ 句点の扱い…1点減点

基準 配点…12点

■模範解答

- A  
日本のアイデンティティを考える際に、
- B  
人々は様々な時期における、複数のイメージを想定するが、
- C  
日本は連続する国名としては千年を越える長い歴史を持つために、
- D  
想定される複数のイメージに共通性を見出すことは難しく、
- E  
そもそも、アイデンティティを決める際、その基準をどこに置くかが決めがたいということ。

■採点方法：各要素単独採点

■字数：解答欄五行二行以下のものは全体不可（0点）

■要素A 日本のアイデンティティを考える際に：2点

・（問三で確認したアメリカのアイデンティティに対して、）日本のアイデンティティがどういったものであるかについて説明がされていないものは、要素A加点なし

・同意例：「日本らしさを考える時に」「日本の本質を考える際に」と「アイデンティ

ティ」を「らしさ」や「本質」としてもよい（要素B以降も同様）

■要素B 人々はさまざまな時期における、複数のイメージを想定するが：2点

・日本のアイデンティティは人によって異なるものをイメージするという点について説明がされていないものは、要素B加点なし

・同意例：時代によってイメージが異なるが、

■要素C 日本は連続する国名としては千年を越える長い歴史を持つために：2点

・（問三で確認したアメリカの歴史に比べて、）日本の歴史が長さを持っている点について説明がされていないものは、要素C加点なし

■要素D 想定される複数のイメージに共通性を見出すことは難しく：3点

・要素Bと要素Cであるために共通性が見出せない点についての説明がされていないものは、要素D加点なし

■要素E そもそも、アイデンティティを決める際、その基準をどこに置くかが決めがたいという点：3点

・傍線部「物差しからして一つに定まらない」を言い換えていないものは、要素E加点なし

・同意例：アイデンティティを決める基準が定めにくい

・同意例：アイデンティティを決めることは難しい

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素F不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…14点

模範解答

A

天心は、大量殺戮が可能な近代的戦争を行う国こそが文明国であるとする

B

近代西洋の見方を否定する

C

と同時に、平和な中で文学芸術を創造し続けていくという美的・感性的な面にこそ

D

日本のアイデンティティがあるとし、

E

急速に近代化して戦争に邁進し、文明国の一員となろうとする

F

日本のあり方をも否定的に断定したということ。



採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 天心は、大量殺戮が可能な近代的な戦争を行う国こそが文明国であるとする  
…2点

・西洋における「文明国」の定義についての説明がされていないものは、要素A加点なし  
・「天心」という主語を明示していない場合、1点減点。

■要素B 近代西洋の見方を否定する…2点

・天心が要素Aの定義を否定したことについての説明がされていないものは、要素B加点なし

・同意例…西洋の見方は関係なし

■要素Cと同時に、平和な中で文学芸術を創造し続けていくという美的・感性的な面にこそ…3点

・天心の考える日本のアイデンティティの内容の説明がされていないものは、要素C加点なし

・「美的・感性的な面」といったニュアンスの内容がない場合、2点減点。

■要素D 日本のアイデンティティがあるとし…3点

・要素Cが天心の考える日本のアイデンティティであることについての説明がされていないものは、要素D加点なし

■要素E 急速に近代化して戦争に邁進し、文明国の一員となろうとする…2点

・「返す刀」で斬り捨てたものが、当時の日本が選択した方向性であることについての説明がされていないものは、要素E加点なし

・「文明国の一員になろうとする」とは近代化し、戦争に邁進することだという内容がない場合、2点減点。

■要素F 日本のあり方をも否定的に断定したということ…2点

・「返す刀で斬って捨てた」という表現を一般化していないものは、要素F加点数なし

・「返す刀」の説明として、「同じ考えに基づいて」等も○

【二〇二〇年度第二回 京大本番レベル模試 理系第二問】

【採点基準】

問一 AIによって、誤情報が完全に排除され正しい情報のみが手に入る、客観的で信頼  
① ② ③  
できる情報空間が実現された時代。(53字)

・①≡3点、②≡2点、③≡3点で。(計8点)

①へAIに制御された社会が実現される。ことの説明ができていること。「AIの利用によって成り立つ社会」ということがわかれば可。

②へAIは誤情報・流言をすべて排除して正しい情報のみを残す。ことの説明ができていること。「人間の能力を超えた水準で誤情報、あるいはフェイクニュースを排除する」・「誤情報はすべて排除して正しい情報のみを残す」など本文そのままの表現でも可。

③へ(それによって)客観的で信頼できる情報空間が実現される。ことの説明ができていること。「客観」・「信  
頼」という表現のないものは不可。 1

① 問二 主観的で一面的な、客観性に欠ける評価であるからこそ、選ばれなかった者は、選

ばれなかった理由をいかようにも考え、自己肯定感を保つことが出来るということ。(75字)

・①≦4点、②≦3点、③≦3点。(計10点)

① (改善の余地がある選抜システムとは) 主観的で一面的な評価である( ) ことの説明ができていないこと。「客観性に欠ける」ということがわかれば表現の違いは広く許容する。「主観的」・「一面的」という表現のみでも可。

② (そのように、客観性に欠ける評価・あいまいな評価と考えるからこそ) 選抜において、選ばれなかった者は、あれこれと理由をつける( ) 不満を口にする( ) ことが可能となる( ) ことを説明できていること。

③ (そのようにして) 選ばれなかった者は、自己肯定感を維持することが出来る( ) ことの説明ができていないこと。「精神的なダメージを軽減できる」などとしているものも可。

2

※ 「客観性を極度に追求した人物評価システムで『ダメだし』を受けた場合、そのダメージは決定的である」との説明だけで、傍線部の直接的な説明がないものは不可。

① 問三 あいまい情報があるからこそ、私たちひとりひとりが、誤情報の存在を前提として、その真偽を辛抱強く  
② 考え悩み、その都度自分の行動を決定し、自由を実現していくという  
③  
④

① 考え悩み、その都度自分の行動を決定し、自由を実現していくという  
能力が養成されるということ。(92字)

・ ① ≡ 3点、 ② ≡ 3点、 ③ ≡ 3点、 ④ ≡ 3点で。(計12点)

① (あいまい情報があるからこそ能力が養成される (or あいまい情報の存在を前提としている) ことの説明が  
できていること。「あいまい情報であるメディア流言がある世界」・「流言が存在する世界」などの表現でも可。

② (あいまい情報を前提に) 私たちは一人一人が情報と向き合っている ことの説明ができていること。「自  
分自身で」ということがわかれば可。

③ (私たちは一人一人が) 目の前の情報に対してその真偽を辛抱強く見極めようとする (or あれこれ悩み考え  
選択する) ことの説明ができていること。「情報を吟味する」・「情報の取捨選択をする」・「判断する」などの  
表現でも可。

④ (そうして) 自身の自由を表現していく ことの説明ができていること。同内容と判断できれば可。

三 古文 30点

◆各設問共通

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 10点

※傍線部(1)は、作者の心中の葛藤を述べている箇所である。この後、作者は別れた恋人に対して、どのような思いでどうしたのか、説明せよ。

(模範解答)

A ○3点

別れた恋人に対する、抑えようのない恨みと嘆きも

B ○3点

晴らすきっかけになるかもしれないという思いで、

C ○4点

人知れずそれを手紙に綴って書き送った。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「別れた恋人に対する」抑えようのない恨みと嘆きを」(3点)

※「胸の中」の理解

× 「(別れた恋人に対する)恨みと嘆きを」というような記述がなければ2点減点

※「せきやるかたなき」の理解

× 「(別れた恋人に対する恨みと嘆きが)抑えようのない」というような記述がなければ1点

減点

B 「晴らすきっかけになるかもしれないという思いで」(3点)

※「胸の中を、…おのづから心のゆくたよりもや」の理解

× 「晴らすきっかけになるかもしれないという思いで」というような記述がなければ3点減点。

C

「人知れずそれを手紙に綴って書き送った」(4点)

※「はかなき水茎の…書き流せど」の理解

×「手紙に綴って書き送った」というような記述がなければ3点減点。

※「人知れず書き流せど」の理解

×「人知れず」というような記述がなければ1点減点。

問二 10点

※傍線部(2)は、修辭的技巧が施された表現となっている。ここで作者は、どのようなことが言いたいのか、説明せよ。

(模範解答)

A ○ 3点

作者と別れた恋人との関係は、

B ○ 3点

同じ現世に生きていても思われないほどすつかり遠く隔たってしまったので、

C ○ 4点

二人の空間的な「近さ」などは、もはや無意味であるように感じられると言うこと。

3

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「作者と別れた恋人との関係」(3点)

※「憂き世の人のつらき偽り」の理解

× 「作者と別れた恋人との関係」というような記述がなければ3点減点。

B 「同じ現世に生きていても思われないほどすつかり遠く隔たってしまった」(3点)

※「同じ世ともおぼえぬまでに隔たり果てにければ」の理解

× 「同じ現世(時代・時間と空間・世界)に生きていても思われないほどすつかり遠く隔たってしまった」という記述がなければ3点減点。

C 「二人の空間的な」「近さ」などは、もはや無意味であるように感じられる」(4点)

※「千賀の塩竈もいとかひなき心地」の修辭的技巧の理解

× 「(二人の空間的な)『近さ』」というような記述がなければ3点減点。

※「千賀の塩竈もいとかひなき心地」の内容理解

× 『『近さ』』などは、もはや無意味であるように感じられる」というような記述がなければ1点減点。



問三 10点

※傍線部(3)の和歌を、修辞法に留意して現代語訳せよ。

(模範解答)

A ○3点

陸奥の壺の碑の「ふみ」ではないが、

B ○4点

あの人からの文もすっかり絶えてしまって、

C ○3点

私とあの人とは遠く隔たった仲となってしまうたことです。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「へ見張りをしていた平中の」従者が油断している間に」(3点)

※「陸奥の国の壺の碑」という序詞の提示

× 「陸奥の壺の碑(の「ふみ」ではないが」というような記述がなければ3点減点。

B 「あの人からの文もすっかり絶えてしまった」(4点)

※「文搔き絶えて」の掛詞の理解

× 「文(手紙)もすっかり絶えてしまった」というような記述がなければ3点減点。

※「人知れず書き流せど」の理解

× 「あの人からの文(手紙)」というような記述がなければ1点減点。

C 「私とあの人とは遠く隔たった仲となってしまうた」(4点)

※「遥けき仲となりにけるかな」の理解

× 「私とあの人と(私たち)は遠く隔たった仲となってしまうた」というような記述がなければ3点減点。